

# 気になるところ

吉岡 晶子

「きょうね、またやっちゃった。なぜか、A子ちゃんのことにかチンときちやうのよね」と、A子に対して思わず感情的に叱ったり、言ってもむずかしいようなことを言葉でぶつけたりしてしまい、隣のクラスの先生にこぼすことが何回もあった。

その頃、ひとりの子が気になり始めると何とかしたいという思いから、自分の気持ちがある向き

「どうしてそういうことをするの?」またそんなこととして「などむきになったり、そういう場面でのかわりが増えてしまいがちな自分、また、どうしてよいかわからずかわれないでいる自分、堂々めぐりをしてしまう自分には気付いていた。A子との間ではそうならないようにしたいと思うが、A子の何が気になるのか今ひとつわからない。A子は私にぶ

つかってくるわけではなく、私が空回りしている気がする。私が何にこだわりモヤモヤしているのか知りたいと思った。

A子は一月生まれ。活発に良く遊び、物怖じしない元気な子。集中力、根気もあり、頼もしく思っていた。なのに、友達への物言いや行動が何かひっきり気になり出し、「A子ちゃん、ちょっとそれはね」などと言うことが増えてきたのである。そこで、A子が友達と遊んでいる時の様子、そこで感じたこと、私とのやりとり、そこで感じたことなどをメモしてみることにした。

その一部を書いてみる。

\*

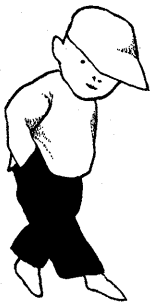
①運動会の前のこと、四歳児が園庭で玉入れをしているのを見て「先生、玉入れしてもいい？」と聞きに来る。

——他の子ども達はなんの抵抗もなくやっているのになぜ聞きに来たのだろうかとひっかかるが、「池の組や林の組の先生がいいって言ったらいいんじゃない」と答える

②「手伝ってあげようか」と、B子のお家作りに加わる。加わってからは、材料をもらいに来たりB子のしていることを見てそれに沿って手伝ったり作ったりする。

——上手な加わり方だなあと思う。

③「何してるの？」と言いなからお店ごっこやままごこに加わる。入ってからは「こうしたら？」



「この方がいいよ」など喜々として活躍する。

——このような場面を何回か見かける。要領良く入っているが、どうも少し軌道にのった面白そうなどころを見つけて入ろうとしているのではないか。自分がゼロから始めるのはどういう時なのだろうか。

④割り箸の先を削って鉛筆を作ろうとしている。先を鉛筆でぬるが思うように黒くならず、「先生、鉛筆みたいに黒くして」と言いに来る。

——黒くぬってみるが、真黒にしたいのかと思  
い、「他のものでもっと黒くぬれるものはない  
かしら」と言ってみたら、「だって鉛筆だ  
もの」とA子。「ああ、そうか、鉛筆だから  
鉛筆でぬりたいのね」と再び腰をすえてぬ  
る。

\*



ごく日常的な一コマである。①を書きながらいつも自分のやりたいことをしているのになぜ？ 私の指示が多いのかしらと思いつつ、そう言えばA子は「先生！」「先生！」と報告に来たり同意を求めることが多いかも知れない。A子にとっての私はどう  
いう存在なのか気になる。②・③では、いつも良く遊んでおりエネルギーな印象があったが、遊びの始まり方はどうだったのだろうかとあらためて気付かされた。④では、自分なりのつもりやイメージがはっきりしているA子、人と一緒に遊ん

でいて自分のつもりを主張した時にどれだけ伝わるのだろうか。はっきりとストレートに話すA子。大人の私にはわかるが友達にはうまく伝わらずにトラブルになることは起こり得る。今までにも相手への言い方がきつくて泣かせたり、主張したことで逆に反論されて泣くことなどあったが、然もありません、など思ったのである。

ほんの一時期のメモだったが、それをきっかけにそれまでのA子のエピソードと照らし合わせて思い巡らしているうちに思ったのは、私はA子のことをよくわかっていなかったということである。A子と私のかかわりはかなり多い。にもかかわらず、知っているつもりになっていただけだった。そしてA子は自分なりの生き方で精一杯生活しているということである。頼もしいA子と思っていたが、まだまだ私を頼りにし、周囲の様子をよく見て目ざとく見つけて吸収するかと思えば、こうと思うと相手が見え

なくなる。A子はこういう子と思い込み、だんだん期待が大きくなり、他の子ならそのまま受け入れられたことも、“そんなはずでは……”と要求が高くなってしまっていた。

そう思い始めてからは、気になるとA子そのものを気にするのではなく、素直に自分を表わしているA子のこと、表わしたこと、表わし方など“そのこと”に対応して、気持ちを伝え易くなっていると思っている。私の表情も違っているかも知れない。この子はこういう子であるとわかったつもりになる怖さを感じている。

次なるA子が出てきた時には（そうならないようにしたいが）、気にしすぎず気にかけて、バランスよくかかわりたいと思っている。

（お茶の水女子大学附属幼稚園）